

病院情報システムにおけるISMSへの取り組み ーIHE (Integrating the Healthcare Enterprise)を 用いた放射線治療専門病院からー

国立研究開発法人 放射線医学総合研究所
重粒子医科学センター病院

院長 安藤 裕

(日本IHE協会 代表理事)

(医療情報標準化推進協議会 理事)



経歴

- 慶應義塾大学医学部を卒業後、慶応大学病院のオーダリングシステム導入に関与した。専任講師、助教授(放射線科学)を経て、
 - 2004年5月 独立行政法人 放射線医学総合研究所(放医研) 重粒子医科学センター 医療情報室 室長
 - 2010年5月 放医研 重粒子医科学センター病院 院長 現在に至る
- 2001年5月 医療情報標準化推進協議会(HELICS) 理事、会長(2007年7月～2013年7月)
 - 2007年7月 日本IHE協会 代表理事

はじめに

- 当院は、一般の病院と比べると、装置やシステムの複雑性や職種の多様性が際だっている。
- 千葉県稲毛区にある放射線治療および研究に特化した医療施設。
 - ✕ 診療科：放射線科・歯科
 - ✕ ベッド数：100床
 - ✕ 外来：1日70～120名
 - ✕ 放射線治療を行うがん患者



病院情報システムの 導入目的

- 患者サービス、患者満足度の向上
- 診療情報の共有と活用によるリスク軽減
- 運用改善による各種業務の省力化・効率化
- 標準化の推進
- 医療安全

放医研の主なシステム

- 電子カルテ (HIS: Hospital Information System)
- 画像管理システム (PACS: Picture Archiving and Communication System) (第1, 第2)
- 放射線情報システム (RIS: Radiology Information System)
- 読影レポートシステム
- 重粒子スケジュール管理システム
- 病歴データベース
- 電子照射録 (X線・電子線)

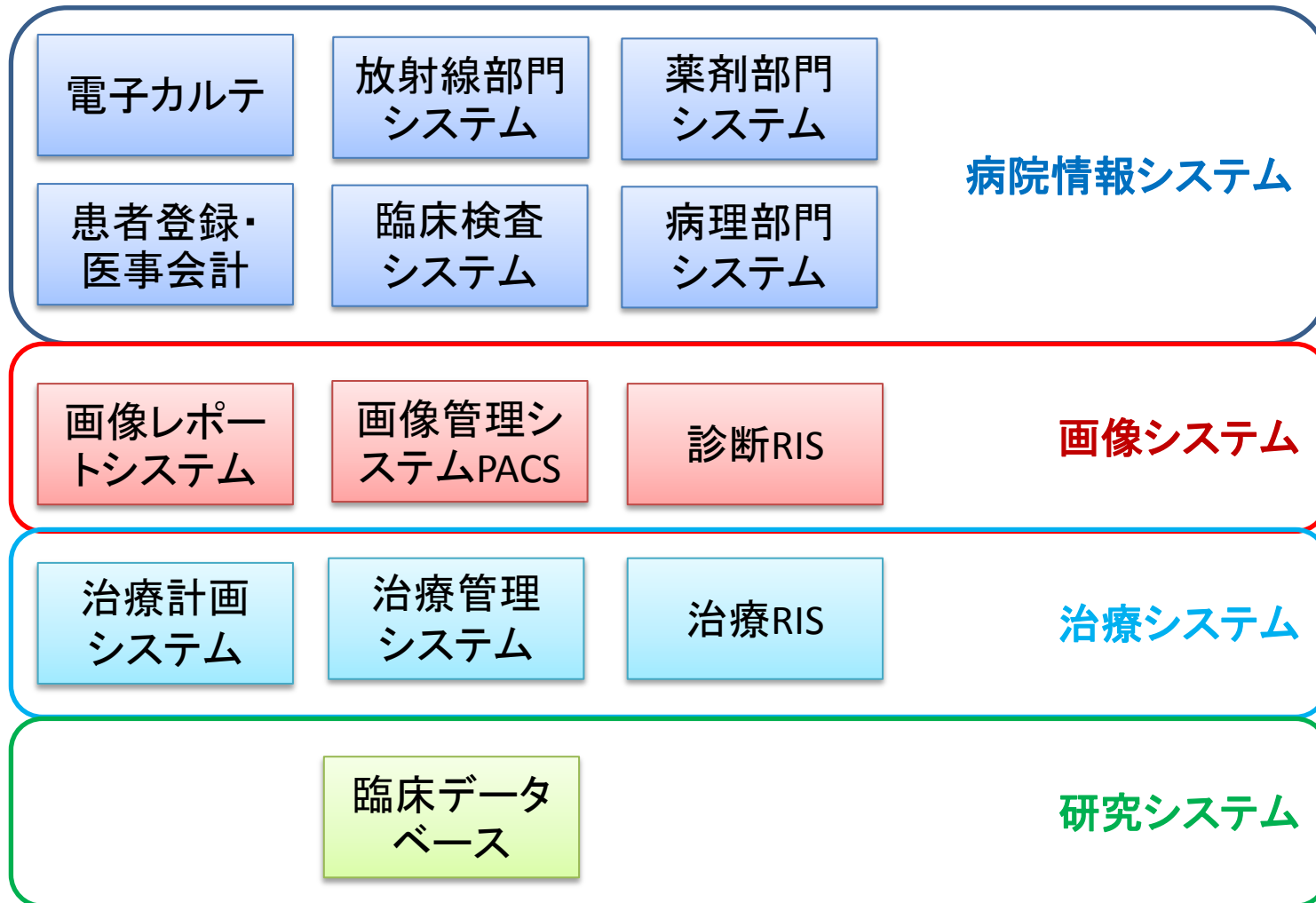
病院情報システムの経緯 (オーダリング系)

- 1993年3月 レセプトコンピューターシステム 三洋メディカル
- 1997年3月 オーダシステム HOPE/EGMAIN (Win3.1版)
 - ・医事会計システム: ASP版 HOPE/X
- 2001年3月 オーダシステム HOPE/EGMAIN (WinNT版)
 - ・医事会計システム: HOPE/SX-U
- 2006年10月 電子カルテシステム HOPE/EGMAIN-EX C/S Edition
 - ・医事会計システム: HOPE/X-W (他)
- 2012年3月 電子カルテ(更新)
HOPE EGMAIN-EX Ver6 (C/S Edition) (他)

病院情報システムの経緯(画像系)

- 1993年 医用画像管理システム(NTT)
- 2000年4月 第1画像管理システム(SDS-ImageServer V1.0) 2000年 病歴データベース(AMIDAS)
- 2001年3月 重粒子スケジュール管理システム
- 2003年 AMIDAS-EMR
- 2004年4月 画像管理システム(SDS-ImageServer V2.0)
- 2006年3月 第2画像管理システム・読影レポートシステム
- 2011年9月 PACS ケアストリームヘルス CarestreamPACS 11.2 patch2

システム構成図



職種の多様性

病院の職員

- 医師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師
- 事務

研究所の 職員

- 医学物理士（線量計算や照射方法のQC/QAを行っている）
- 研究者（放射線治療に関する研究を行っている）

委託業者

- 受付・医事会計の委託職員
- 放射線発生装置のオペレーター（イオン源や直線加速器、シンクロトロン）の運転を管理する）

4つのセンター

■ 放医研には、4つのセンター

- ✕ 重粒子医科学センター
- ✕ 分子イメージング研究センター
- ✕ 放射線防護研究センター
- ✕ 緊急被ばく医療研究センター

■ 病院は、重粒子医科学センターに所属しているが、他の3センターとも密接に連携しており、他のセンターの職員が病院にある情報システムを操作する必要がある。また、装置によっては、病院外に端末があり、その端末を他のセンターの職員が操作する必要もある。

ISMSとは

- 個人情報保護法により、個人健康情報を取り扱う組織はその安全管理が義務付けられた。
- 情報セキュリティーマネージメント行っていることを患者等に説明できる説明責任を負っている。
- リスク評価→リスク対応が必要
- 方針の検討、組織の取り組み、情報資産管理など
- ISO 27001/27002が定められている。

放医研におけるISMSの特徴

- 情報セキュリティの方針と体制の明確化
 - ✕ 責任と範囲
- 情報資源の調査および機密性、完全性、可用性の面からリスクを特定し、対策を検討
- 内部監査(1年に1回)
- PDCAサイクルをまわして、継続的な改善へ
- 定期的な情報セキュリティ教育

電子カルテシステム

■ 静脈認証





課題

- 複数システムを利用して診療を行う場合に、シングルサインオンで効率化したい。
- 複数システム間で患者選択が連携するようにし、患者の取り違いを防止したい。
- システムの時刻合わせをし、使用ログを監査証跡に利用したい。
- システム間で患者の基本情報をリアルタイムで更新したい。

課題の解決にIHE

- IHEは、Integrating the Healthcare Enterpriseの略、「医療連携のための情報統合化プロジェクト」
- 目的は：
 - ✕ IT化して相互運用性
 - ✕ 業務の効率
- IHEを用いて、
 - ✕ 複数システムのログイン・ログアウトの連携
 - ✕ 複数システムで患者選択の連携
 - ✕ 時刻合わせとログ管理
 - ✕ 患者基本情報の整合性確保

IHE

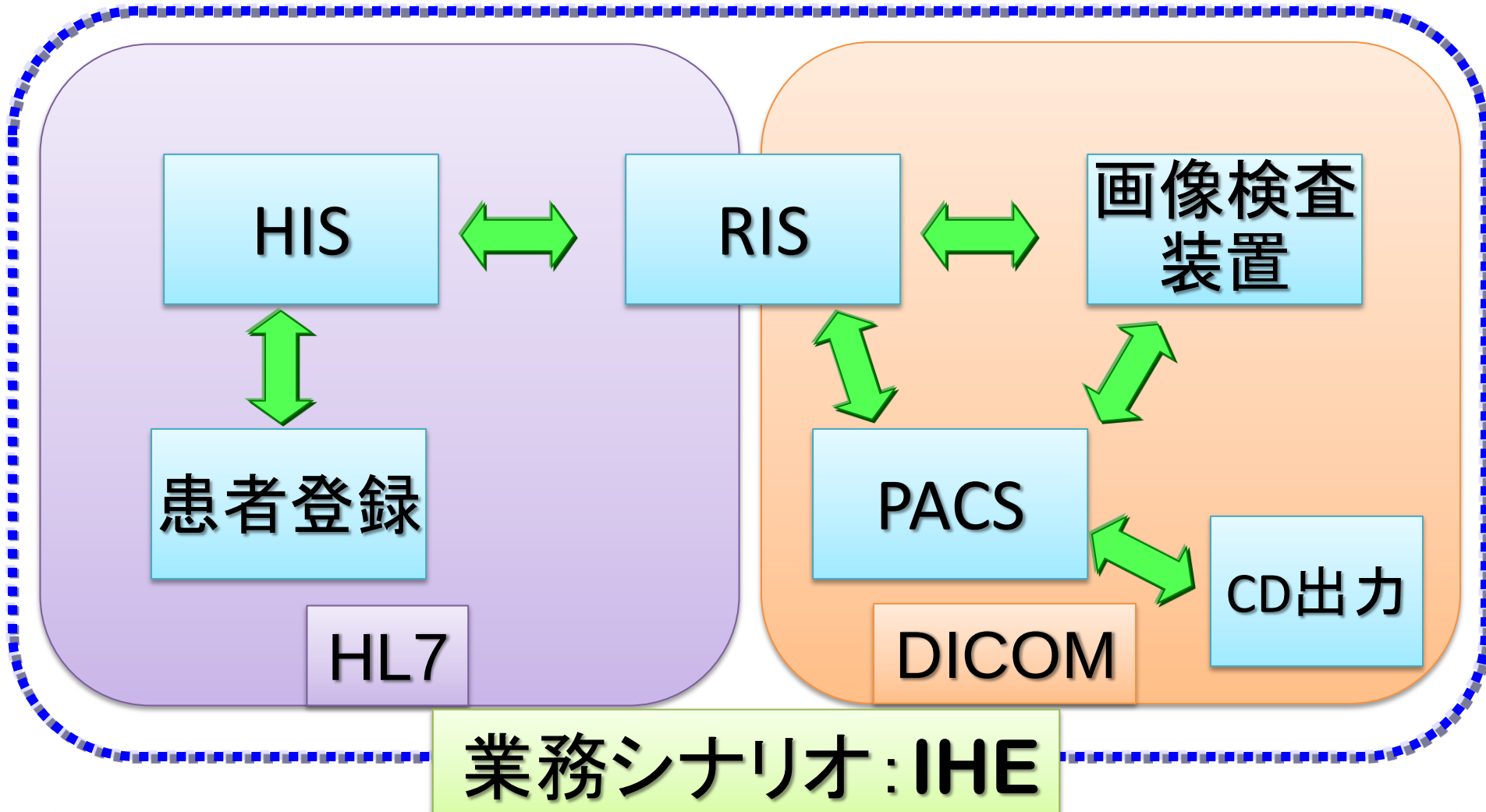
Integrating the Healthcare Enterprise

医療連携のための
情報統合化プロジェクト

IHE とは？

- IHEは、既存の規格や技術を利用して、より効率的な医療情報システムを構築することである。
- 放射線科領域の情報システム（放射線情報システムやPACS）では、DICOM規格が使用されている。病院情報システムと放射線科領域の情報システムを接続するときには、HL7の規格が用いられている。
- これらの規格を使用する場合に、規格の実装を詳細に定めているのが、IHEである。

規格を適材適所に使う

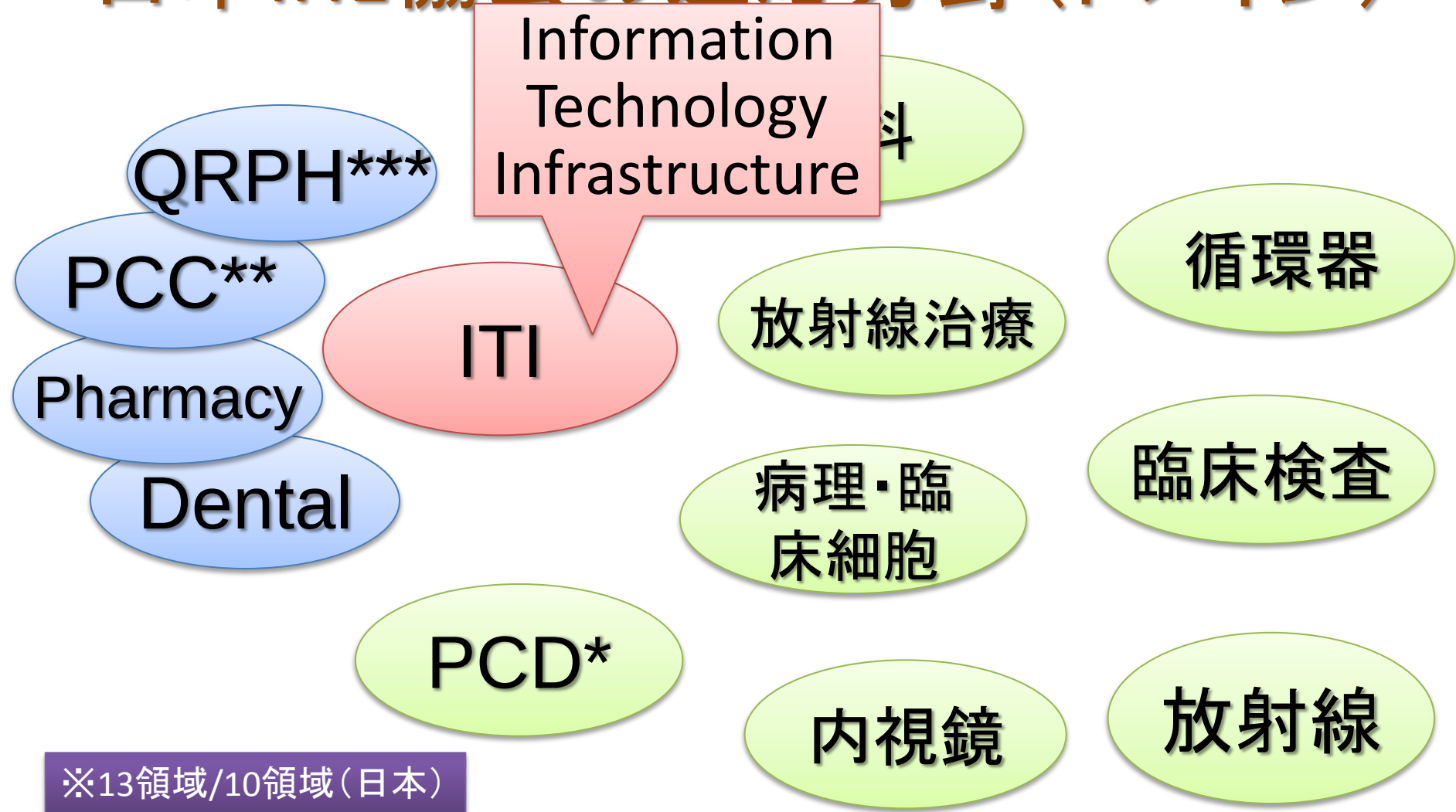


HIS:病院情報システム、RIS:放射線科部門システム、PACS:画像管理システム
HL7:Health level 7(医療分野の文字情報主体の標準規格)、DICOM: Digital imaging and communications in medicine (医療分野の画像関連の標準規格)

IHE活動

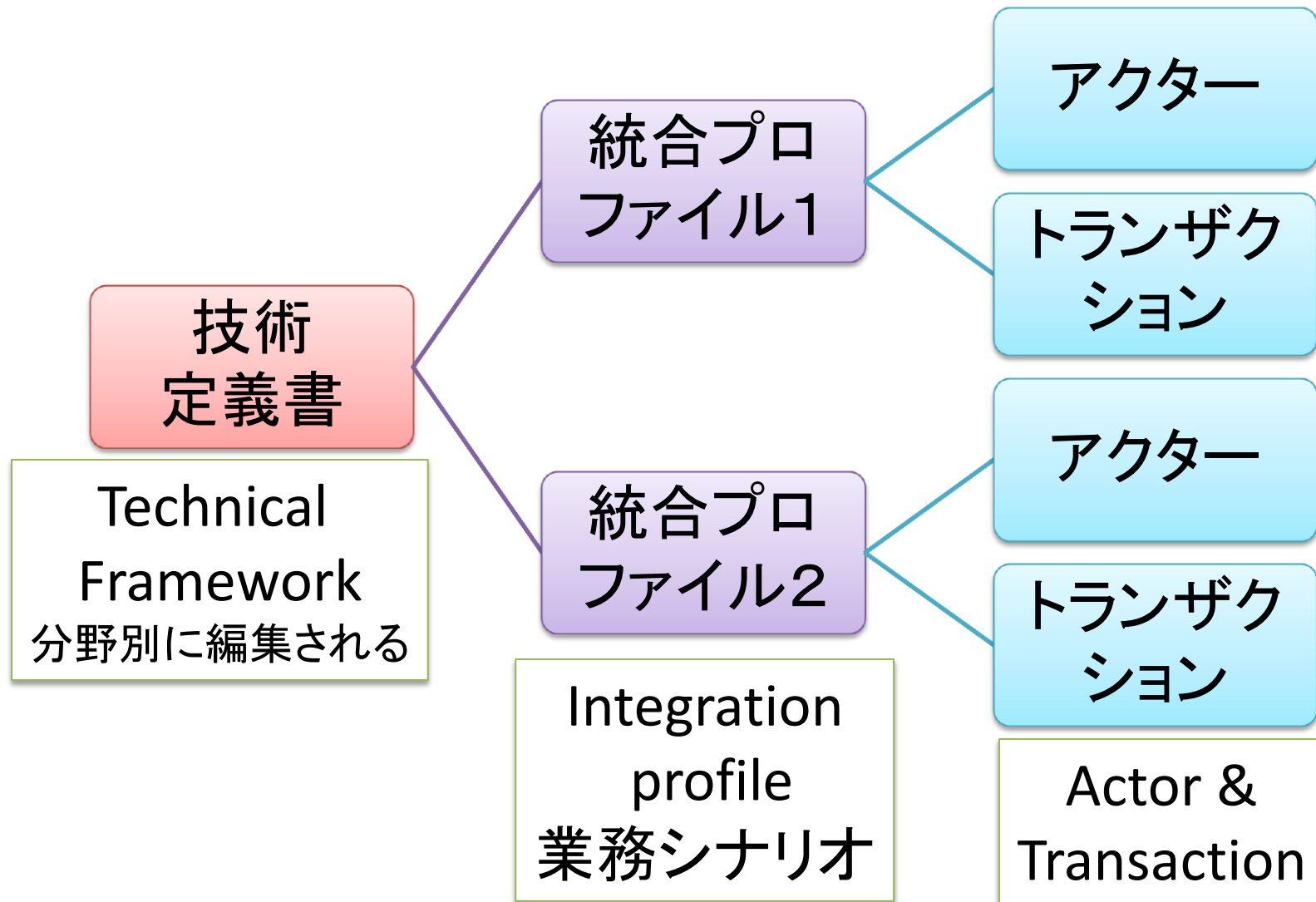
- 各分野での業務シナリオの作成
- 既存の規格を利用しての業務シナリオの実現
- 接続テスト(Connectathon)
- 結果の公開・活動の広報
- 国際的な協調 など

日本IHE協会の適応分野(ドメイン)



*PCD: Patient Care Device, ITI: Information Technology infrastructure
**PCC: Patient Care Coordination
***QRPH: Quality, Research and Public Health

IHEの文書＝技術定義書



IHE-J Connectathon 2014.9.16-20



IHE-J Integrating the Healthcare Enterprise, Japan

IHE-J 2014 コネクタソン

医療情報連携の仕組みを変えるIHE

2014年9月16日(火)～9月20日(土)

会場：1階 横浜産貿ホール マリネリア

協力：シスコシステムズ合同会社

※ 一般の方のご入場はできません。

日本におけるコネクタソン(接続テスト) 2014年9月

統合プロフィール	アクタ															
	ARI	CPI	IRWF	KIN	NAHND	PDI	REM	SWF	CATH	ECG	ECHO	ED-CARD	IVI	STI		
参加ベンダ (あいうえお順)	Image Display Image Manager/Archive Acquisition Modality	Evidence Creator Image Display Image Manager/Archive DSS/Order Filler	Image Manager/Archive Importer (Scheduled Option) L Importer (Unscheduled Option) Patient Demographics Supplier	Acquisition Modality Evidence Creator Image Display Image Manager/Archive	Image Display Image Manager/Archive Display	Image Display Portable Media Creator L PMC (WEB Content Option) Portable Media Importer	Acquisition Modality Dose Information Consumer Image Manager/Archive	Acquisition Modality DSS/Order Filler Image Display Image Manager/Archive Order Placer Performed Procedure Step Manager	Acquisition Modality DSS/Order Filler Image Display Image Manager/Archive Order Placer Performed Procedure Step Manager	Information Source DSS/Order Filler Image Display Image Manager/Archive Order Placer	DSS/Order Filler Image Display Image Manager/Archive Order Placer	Image Display Image Manager/Archive Acquisition Modality	Image Manager/Archive DSS/Order Filler Image Display Image Manager/Archive Acquisition Modality	Image Display Image Manager/Archive DSS/Order Filler Image Display Image Manager/Archive Acquisition Modality		
アイテック販急販神 (株)																
アイホン (株)																
アレイ(株)																
(株) イメージワン																
(株) インフィニットテクノロジー																
インフォコム (株)																
(株) エイアンドティー																
(株) SBS情報システム																
亀田医療情報 (株)																
キッセイコムテック (株)																
キヤノン (株)																
京都医療科学大学																
(株) グッドマン																
(株) ケアコム																
ケアストリームヘルス (株)																
ケーディーアイコンズ (株)																
コニカミノルタ (株)																
三栄メディシス (株)																
GEヘルスケア・ジャパン (株)																
(株) シーエスアイ																
(株) ジェイマックスシステム																
(株) システムインフロンティア																
(株) ソフトウェア・サービス																
(株) 千代田テクノ																
(株) テクニクス																

Year	2004	2005	2006	2007	2008
Vender	20	25	29	41	40
System	35	40	62	84	81

Year	2009	2010	2011	2012	2013	2014
Vender	46	45	46	42	49	44
System	86	89	82	76	85	88

EUA・PSA

- 当院独特の機能として、複数システムを一回のログインで利用できるようにするためのシングルサインオン機能(IHEのEUA)を利用し、ログオフ忘れの防止を実現している。
- また、患者を選択するとそれと連動して他のシステムも患者が自動的に切り替わり、患者の取り違えを防止する機能(IHEのPSA)を実装している。

導入した統合プロフィール

■ 放射線・検体検査領域の中から

- ✕ ①SWF/LSWF: 予約を伴う業務フロー
- ✕ ②PIR/LIR: 患者情報の整合性確保
- ✕ ③RWF: レポート業務フロー
- ✕ ④PDI: 画像可搬型媒体

■ IHE IT Infrastructureの中から

- ✕ ⑤EUA—Enterprise user authentication: ユーザの同期(シングルサインオン)
- ✕ ⑥PSA—Patient synchronized applications: 選択患者の同期
- ✕ ⑦CT—Consistent time: 時刻同期

導入(予定)の統合プロフィール

■ 放射線・検体検査領域の中から

- ✕ IRWF (Import Reconciliation Workflow) : メディアによる情報連携の整合性確保

■ IHE IT Infrastructureの中から

- ✕ PAM (Patient Administration Management) : 患者基本情報の管理
- ✕ ATNA (Audit Trail and Node Authentication) : 監査証跡

■ 以下導入予定

- ✕ XDS/XDS-I (Cross-Enterprise Data Sharing) : 施設間連携
- ✕ PIX/PDQ (Patient Identifier Cross-Referencing/ Patient Demographics Query) : 患者の名寄せ/患者の基本情報問い合わせ

経緯

- 2006年 重粒子医科学センター病院では、情報セキュリティに関する環境を整え、個人情報の特定期間・リスク分析の作業を実施する一方、個人情報の保護および情報セキュリティに関する規定の充実をはかりISMSのマネジメントシステムを導入する準備を整えた。
- 2007年度からプライバシーポリシー・セキュリティポリシーに関する監査を1年に1度行っている。2009年度以降は、これまでの改善点も含めて監査を行い、監査報告書を作成し、病院長に対するマネジメントレビューを行っている。

セキュリティポリシーの徹底

- セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ実施手順書(利用者編、管理者編)を作成した。
- 病院内や関連する部門でこの手順書に従い、業務を行うように徹底した。
- この手順書を部門毎にカスタマイズし、チェックをしやすく作成したのが、情報セキュリティ実施手順書のチェックリストである。
- 情報セキュリティの実施の徹底を図るために、作成した情報セキュリティ実施手順書(利用者編、管理者編)を利用して、1年に1回、毎年手順書に基づいて監査を行っている。

ネットワーク

- 放医研のネットワークは、インターネットと接続されている研究系のネットワークと患者情報などの機微な情報を扱う診療系のネットワークが存在する。さらに、これらとは、独立あるいは連携していくつかのサブネットがあり、ネットワークの安全性も重要な課題である。

ネットワーク分離

- 病院情報システムのネットワークは、以前は研究系のネットワークと接続されており、インターネットのホームページやメールを診療系のネットワークで見ることができた。このためメールを介してウイルスが入って来る可能性や患者の個人情報外部に漏洩する可能性があり、2009年4月より、病院情報システムが接続されている診療系ネットワークとインターネットと接続されている研究系ネットワークを物理的に分離した。

監査

- 各部門で情報セキュリティ実施手順書の遵守状況を調べ、さらに新たな問題点があるかどうかを確認するために、2007年度から病院全体として、監査を実施している。監査の実施は、医療情報課のマンパワーだけでは限界があるために、外部の業者に依頼している。監査の対象とした部門は、重粒子医科学センター病院が11部門、緊急被ばく医療研究センターが1部門、分子イメージングセンターが4部門の計16部門であった。
- チェックリストについては、部門別に項目の過不足を修正し、最適化を図った。その後、チェックリストによるチェックを行った。
- 各部門の実務管理者(2~3人)へのヒアリング、現地調査、関係文書や記録の閲覧・照合等を、外部の専門的監査要員に委託して実施した。

監査によって明確になった問題点①

■ 指摘された問題点は、

- (1) アカウントの中止・廃止に関するルールの未整備
- (2) 研究を行う場合の準拠すべき法令・ガイドラインの明記
- (3) 診療系のネットワークとインターネットの接続
- (4) 画面のクリヤーによる個人情報の保護
- (5) USBメモリーの運用について定期的な監督管理
- (6) サーバ室の鍵の管理
- (7) ロッカーの施錠管理
- (8) 訪問販売員の病棟への立ち入り
- (9) プリンター上における印刷物の放置

監査によって明確になった問題点②

■ 指摘された問題点は、

- (10) PC本体のセキュリティーチェーン設置
- (11) 解錠・施錠記録の不備
- (12) 印刷された処方箋の処理
- (13) パスワードの設定不備
- (14) 開示に関する教育の不足
- (15) 食札の印字内容の不備
- (16) 個人情報・情報資産とリスク分析の定期的な実施
- (17) 契約時のセキュリティー条項のひな形整備

などであった。これらの項目については、PDCAサイクルにより、毎年、改善を行っている。

改善へ向けて(1)

- 患者の個人情報を含む病院情報システムを取り扱う職員（医師、看護師、技師、事務など）を対象として**医療情報セキュリティ講習会**を行い、講習会の参加を義務づけている。毎年、講習会は4月に行い、新任の職員も含めて、前年度の監査の結果、指摘された点を含めて解説を行っている。
- 講習会に参加できなかった職員や新規に採用された職員には、内容を録画したDVDを作成し、DVDによる受講としている。登録ユーザーで講習会に参加していない職員には警告を発し、DVDによる受講を完了しない職員は、システムを使用できないように、**ユーザIDを一時的に無効**としている。

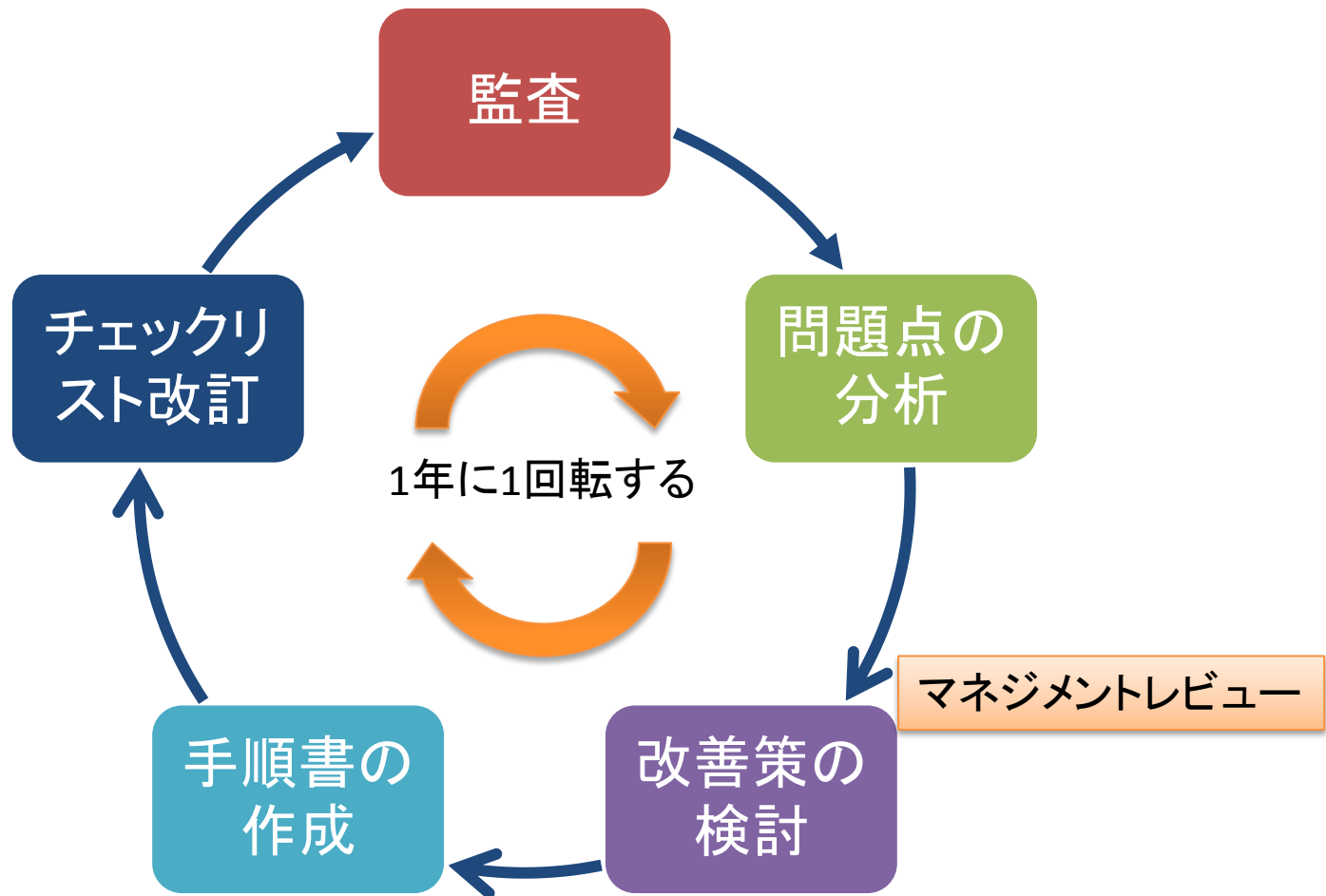
改善へ向けて(2)

■ 今まで改善が完了した項目は、

- ✕ ネットワークの階層化(2009)
- ✕ パスワードの桁数の不備(2011)
- ✕ ドアの施錠の不徹底(2013, 2014)
- ✕ 「医療情報セキュリティ実施手順書(利用者編)」の周知不徹底(2010)
- ✕ ウイルス対策ソフトの不備(2011)
- ✕ サーバルームにおける消火設備の不備(2010)
- ✕ サーバラックの耐震設備の不備(2011)
- ✕ 共用のID使用(2011)
- ✕ 医療情報システム管理者向けの研修の不備(2011)
などである。※(完了年度)

- ## ■ 監査では、不備や問題点だけでなく、良好な点も指摘された。
- (1) 中途採用職員を対象に情報セキュリティ教育を自主的に実施、(2) 独自に静脈認証の実施と1回／月のパスワード変更などであった。

PDCAサイクル



ISMSの課題

- 各職員に対するISMSの動機付け
- 医療分野におけるリスク評価の複雑性
- 医療分野での機密性・完全性・可用性のバランス

IHEを用いた「地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」

今後の地域医療連携へ向けて

地域医療連携における 情報連携基盤技術仕様



地域医療連携における情報連携基盤 技術仕様

文書番号： IHE-J-A-G0001 V1.0

版番号： 1.1

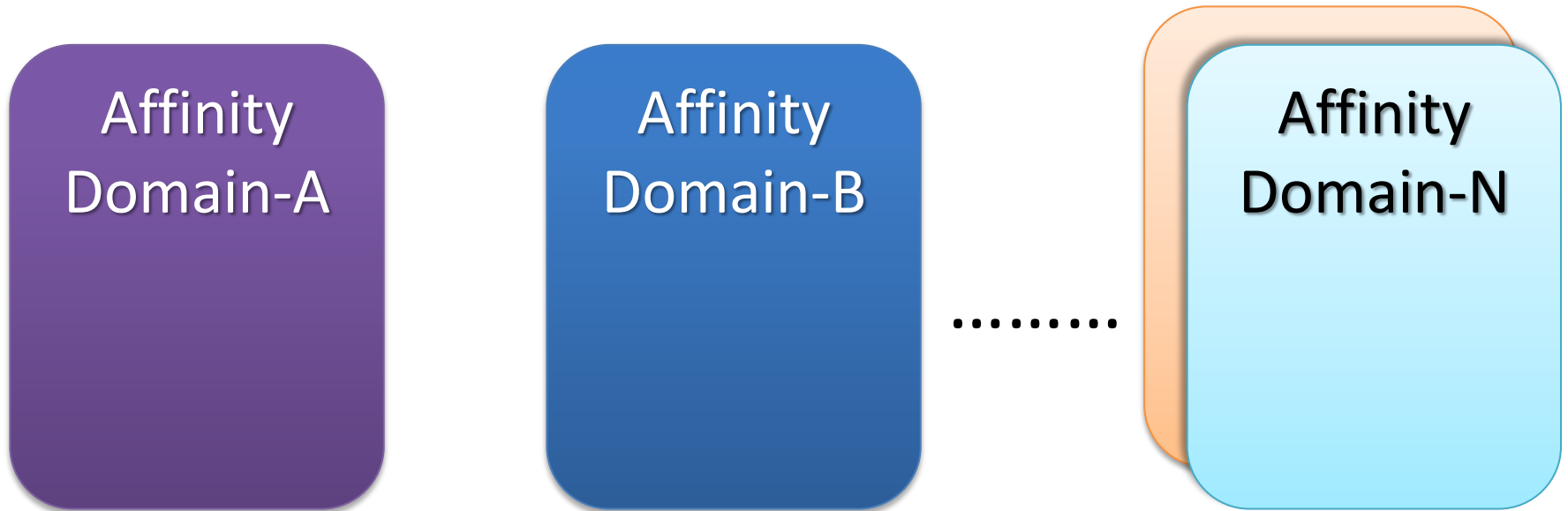
2014 年 2 月 10 日

HELICS指針「地域医療連携における 情報連携基盤技術仕様」とは

- 地域連携に必要なIntegrating the Healthcare Enterprise(IHE)の業務シナリオをまとめたもの。
- 含まれる機能は
 - ✕ 名寄せ(統一ID)
 - ✕ 情報共有方法(文書・画像)
 - ✕ 広域連携における情報共有方法(文書・画像)
 - ✕ 時刻同期
 - ✕ 監査証跡

用語解説-1

- 協カグループ: IHEでは「連携する医療団体」を **Affinity Domain** と呼び、**XDS Affinity Domain (XAD)** と呼ばれる。XAD内では、同じ共有**ポリシー**で運営される。別名: **コミュニティー**。



用語解説-2

協カグループ内連携

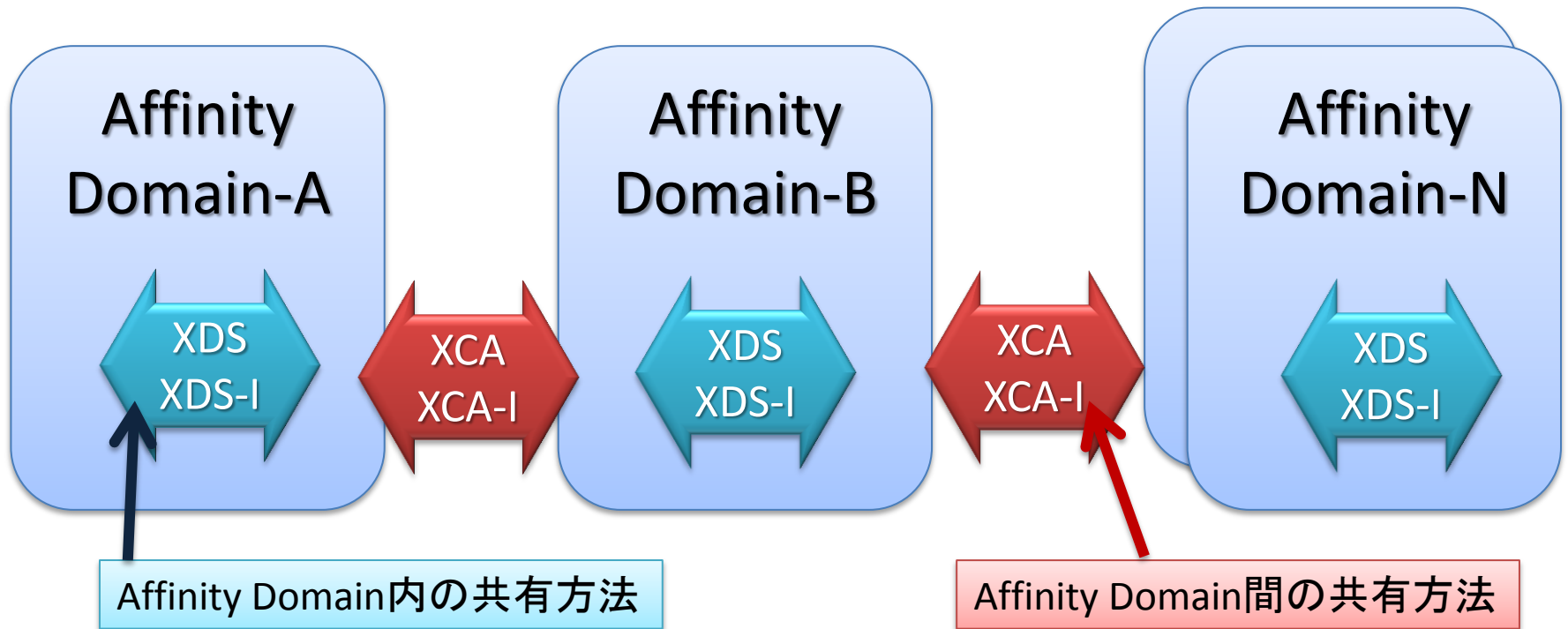
- XDS: 退院サマリーなどの共有 (Cross-Enterprise document sharing)
- XDS-I: 画像の共有 (Cross-Enterprise Document Sharing for Imaging)
- XAD: 連携する医療団体 (XDS affinity domain)

広域連携

- XCA: 協力医療団体 (コミュニティー) 間での文書などの共有 (Cross Community Access)
- XCA-I: 協力医療団体間での画像の共有 (Cross Community Access for Imaging)

用語解説-3

■ コミュニティ内の連携とコミュニティ間の連携



厚生労働省標準へ

**IHEのプロファイル XDS.B, XDS-I.B,
PIX/PDQ, XCA, XCA-I, XCPD, CT, ATNA**

地域連携関連業務シナリオ(まとめ)

	施設連携(ドキュメント)		施設連携(画像)	
	コミュニティ内	コミュニティ間	コミュニティ内	コミュニティ間
共有方法	XDS	XCA	XDS-I	XCA-I
ID番号の 名寄せ管理	PIX/PDQ (V2/V3)	XCPD*	PIX/PDQ (V2/V3)	XCPD*
Privacy保護	BPPC** 			
セキュリティ	ATNA/CT*** 			

*XCPD: Cross-Community Patient Discovery

**BPPC: Basic Patient Privacy Consents

***ATNA/CT: Audit Trail and Node Authentication, Consistent Time

患者IDの名寄せ機能の実現

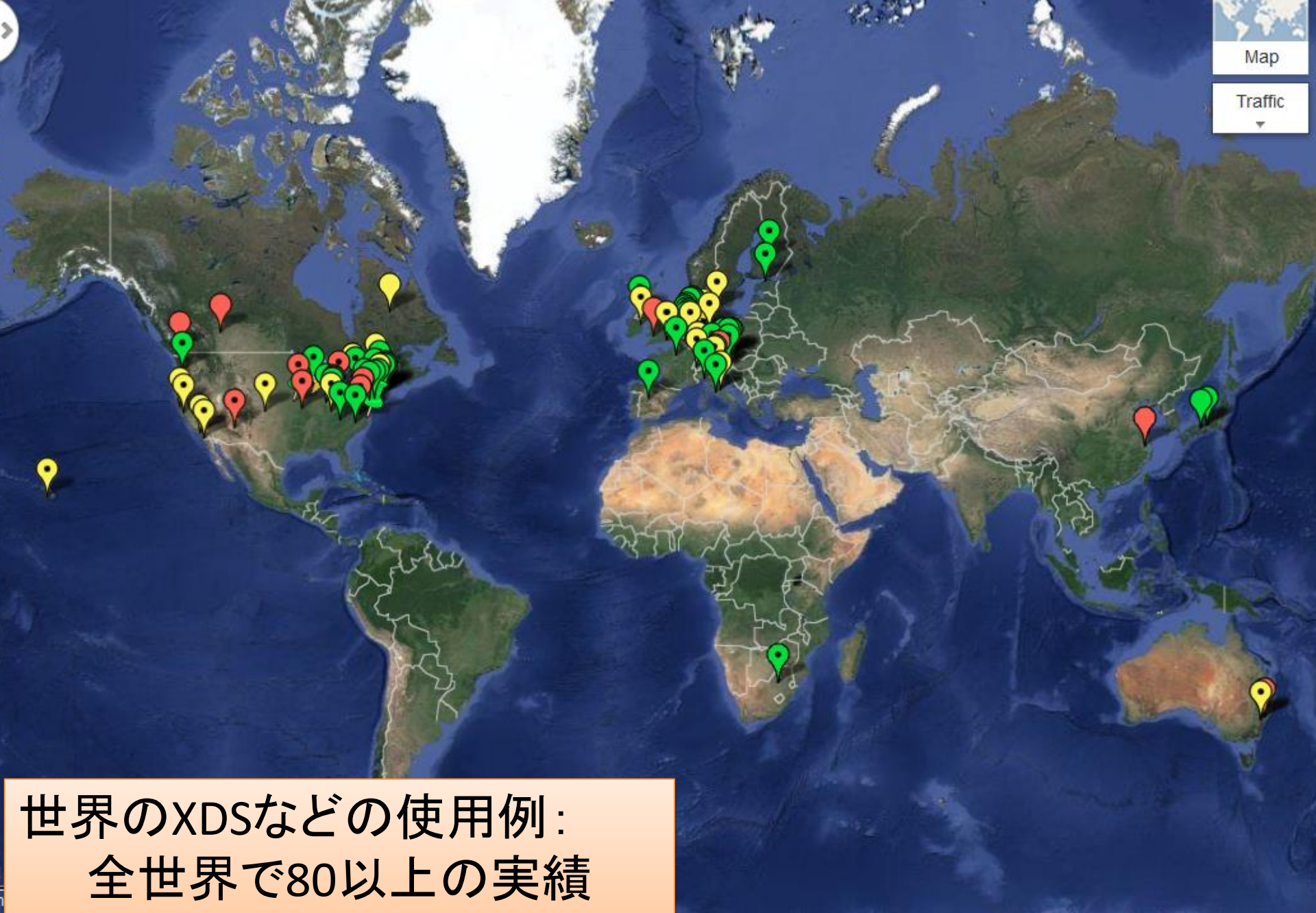
■ PIX: Patient Information Cross-referencing 患者の名寄せ機能

- ✗ Master Patient Index (MPI): 協力医療団体・コミュニティ内でMPIとの対応をつける

- ✗ HL7 V2/V3に対応するものがある

■ PDQ: Patient Demographic Data Query 患者の基本情報(名前、電話番号、生年月日、母親の名前、出産順番など)の問合せ

- ✗ HL7 V2/V3に対応するものがある

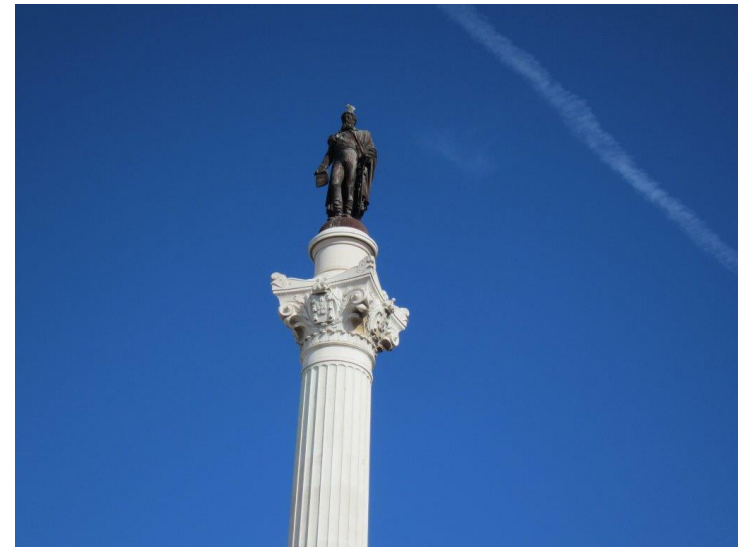


世界のXDSなどの使用例：
全世界で80以上の実績

<http://tinyurl.com/WWXDS>

監査証跡用の必須機能

- CT 時刻同期
- ATNA 監査用ログ出力および端末認証



時刻同期

CT: Consistence Time



監査証跡とノード(端末)認証

ATNA: Audit Trail and Node Authentication

ATNA (Audit Trail and Node Authentication)

- 各システムが統一的なフォーマットで操作ログを出力し、ログ監査に備える機能。
→監査証跡
- 一方、装置同士で通信を行う場合に、相手が目的の装置であることを確認する機能。
→装置認証
- CT (時刻同期)の利用を前提

色々な問題点もあったが、ISMSを実践した。
放医研病院ではISMSの認定を考えたが、
**ISMSの施設認定を得るよりも、
ISMSを実践することが重要。**

まとめ

- 2006年に電子カルテを導入し、IHEによる相互運用性の向上、標準化などシステムの改善を行った、2007年度からISMSによる情報セキュリティ管理を導入した。
- 病院では、ヒヤリハット対策などの活動を通じてPDCAサイクルを日常的に行っているので、特にISMSのPDCAサイクルに対する抵抗感はなかった。
- 病院において情報セキュリティの向上を目指すには、その重要性を認識するとともに強力なリーダーシップが必要と感じた。
- IHE準拠のシステムを導入することにより、技術的な面から効率よくISMSが実践できた。

END



＜資料＞

HELICS指針とは

医療情報標準化推進協議会

Health Information and Communication
Standards Board (HELICS Board)

HELICS協議会
2001年設立

標準に対する行政の対応

- 厚生労働省では、「規制改革推進のための3か年計画」(平成19年6月22日、閣議決定)の中で提言された『医療機関が診療情報を電子的に外部に出す場合の標準の制度化』という事項について、平成19年度の保健医療情報標準化会議において、標準を制度化するにあたっては国際動向に機動的に対応することが必要であるため、行政が法令や通知等により対応することは、技術的にも困難であり迅速さに欠けるおそれがあるとの議論がなされた。

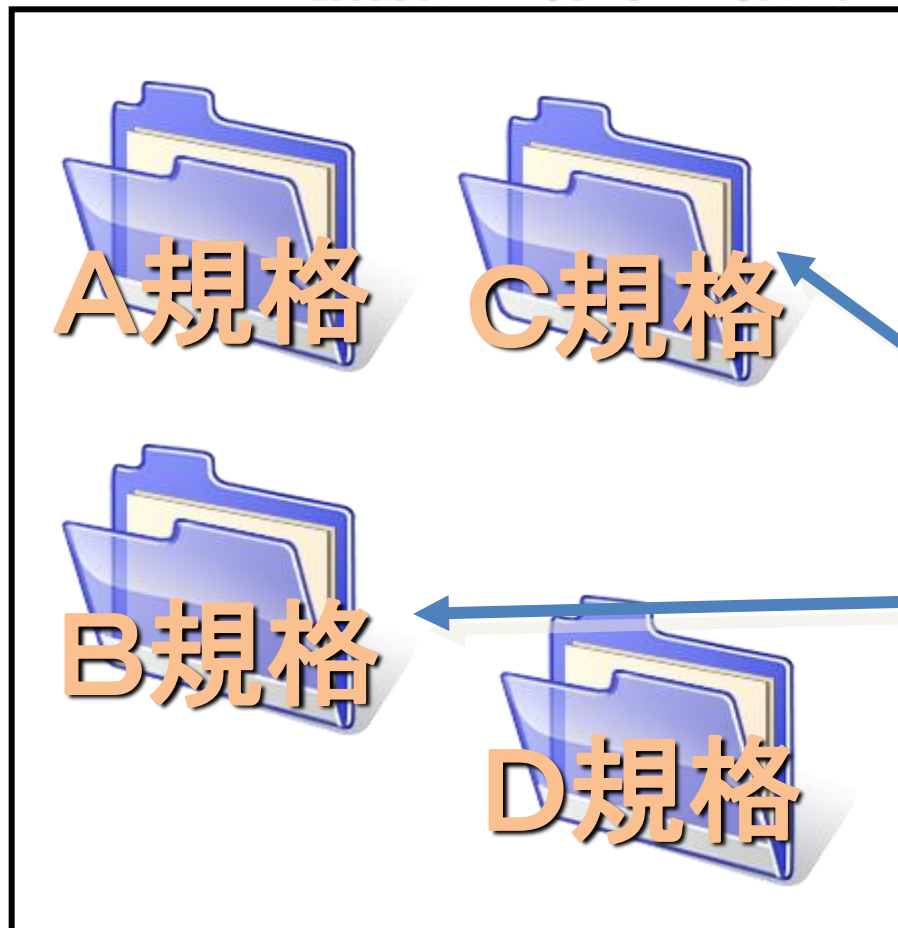
標準化に関する合意を形成し得る民間団体

- 保健医療情報標準化会議で、標準化に関する合意を形成し得る民間団体を特定し、関係者の合意の下、標準とするに相当であるとされた規格を厚生労働省における標準として認める等により、保健医療情報分野の標準化を推進する方法が相当であるとされた。
- 保健医療情報標準化会議では、規格制定等団体の多くが会員として加盟しており、標準指針の策定に当たっても投票等の意志決定プロセスが明確であること等の理由から、HELICS協議会が「標準に関する合意を形成しうる民間団体」として相当であるとの結論となった。



標準化指針と厚生労働省標準

HELICS協議会 標準化指針



保健医療情報 標準化会議



厚生労働省標準

[トップページ](#)
[医療情報標準化指針一覧表](#)
[入会のご案内](#)
[標準規格・レポート等の申請](#)
[お問い合わせ](#)

「医療情報標準化指針」一覧（採択されたもの）

申請受付 番号	提案規格名（〔 〕 内は提出団体名）	状況	申請日	採択日	厚生労働省 標準規格	申請書	レポート	規格書等
HS001	医薬品HOTコードマスター 〔（一財）医療情報システム開発センター〕	採択	2002/03/04	2003/05/23	認定 2010/03/31  通知PDF	 PDF	2013/07  PDF	 リンク
HS005	ICD10対応標準病名マスター 〔（一財）医療情報システム開発センター〕	採択	2004/06/16	2004/12/28	認定 2010/03/31  通知PDF	 PDF	2013/07  PDF	 リンク
HS007	患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書（患者への情報提供） 〔日本HL7協会〕	採択	2006/03/28	2007/03/16	認定 2010/03/31  通知PDF	 PDF	2013/07  PDF	 リンク
HS008	診療情報提供書（電子紹介状） 〔日本HL7協会〕	採択	2007/12/26	2008/09/01	認定 2010/03/31  通知PDF	 PDF	2013/07  PDF	 リンク
HS009	IHE統合プロファイル「可搬型医用画像」およびその運用指針 〔（一財）日本医療情報学会〕	採択	2008/01/07	2008/12/01	認定 2010/03/31  通知PDF	 PDF	2013/07  PDF	 リンク

HS013	標準歯科病名マスター 〔（一財）医療情報システム開発センター〕	採択	2009/12/18	2010/09/20	認定 2011/12/21 通知PDF	PDF	2013/07 PDF	リンク
HS014	臨床検査マスター 〔（一財）医療情報システム開発センター〕	採択	2009/12/18	2011/01/31	認定 2011/12/21 通知PDF	PDF	2013/07 PDF	リンク
HS016	JAHIS放射線データ交換規約 〔（一社）保健医療福祉情報システム工業会〕	採択	2011/03/08	2011/09/29	認定 2011/12/21 通知PDF	PDF	2013/07 PDF	リンク 正誤表
HS017	HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約, 会計, 照射録 情報連携 指針 (JJ1017指針) 〔（公社）日本放射線技術学会〕	採択	2011/04/19	2011/12/16	認定 2012/03/23 通知PDF	PDF	2013/07 PDF	リンク
HS022	JAHIS処方データ交換規約 〔（一社）保健医療福祉情報システム工業会〕	採択	2013/10/09	2014/12/16	未定	PDF	2014/08 PDF	リンク
HS023	地域医療連携における情報連携基盤技術仕様 〔（一社）日本IHE協会〕	採択	2014/03/05	2015/02/05	未定	PDF	2014/08 PDF	リンク

「医療情報標準化指針」提案申請状況一覧（現在審査中のもの）

申請受付 番号	提案規格名（〔 〕内は提出団体名）	状況	申請日	申請書	レポート	規格書等